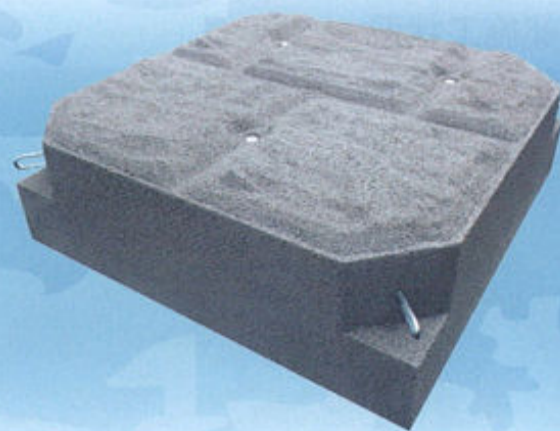


大型張ブロック



特長

- ①従来の間知ブロック張りは、緩勾配（1:1.0～1:2.0）施工時に胴込コンクリート打設が困難で、ブロックが小型のため施工日数が長期間必要でした。
- ②ロックルは、**ブロック自体が控え厚35cmで胴込コンクリートが必要なく、1.0m²/個と大型なため大幅に工期を短縮**することができます。
- ③即時脱型粗面コンクリートのため、**明度が5以下となり周辺環境と馴染みます。**
- ④規格は全体厚35cmの350型と板厚35cmの385型の2タイプ選択いただけます。

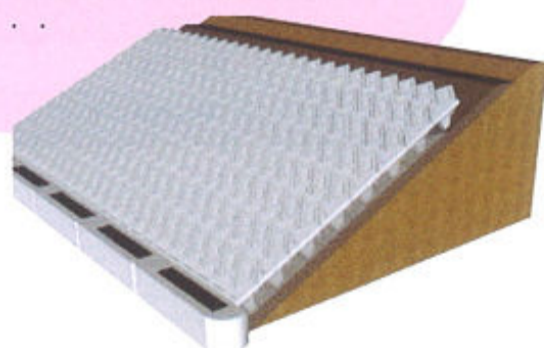
護岸ブロック緩勾配規格選定一覧表

ロックル

規格	コンクリート種類	ブロック質量(kg)	対応流速(m/s)	明度低減	法面の植生	水際の植生	背後地透水性
350型	粗面コンクリート	664	7.6	○	×	△	×
	7号ポーラス	631	7.5	○	△	○	○
385型	粗面コンクリート	731	7.9	○	×	△	×
	7号ポーラス	696	7.8	○	△	○	○

×：期待できない
△：ある程度期待できる
○：期待できる
設計対応流速は護岸勾配1:2.0・設計水深5.0mでの計算値です。

間知ブロックの場合、
100m²施工時：830～1000個使用
のところが・・・



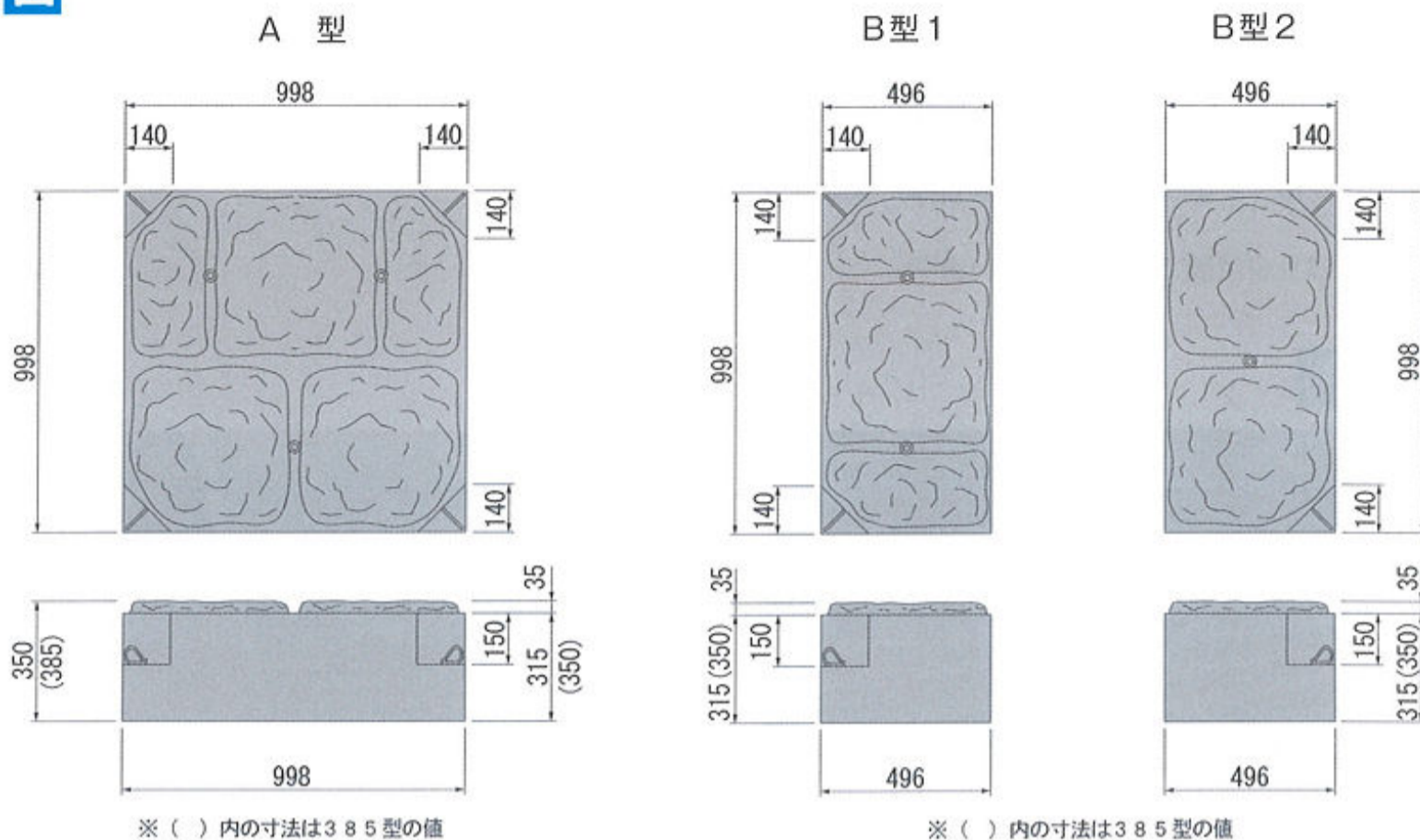
ロックルの場合、
100m²施工時：100個使用と
大幅に工期を短縮可能



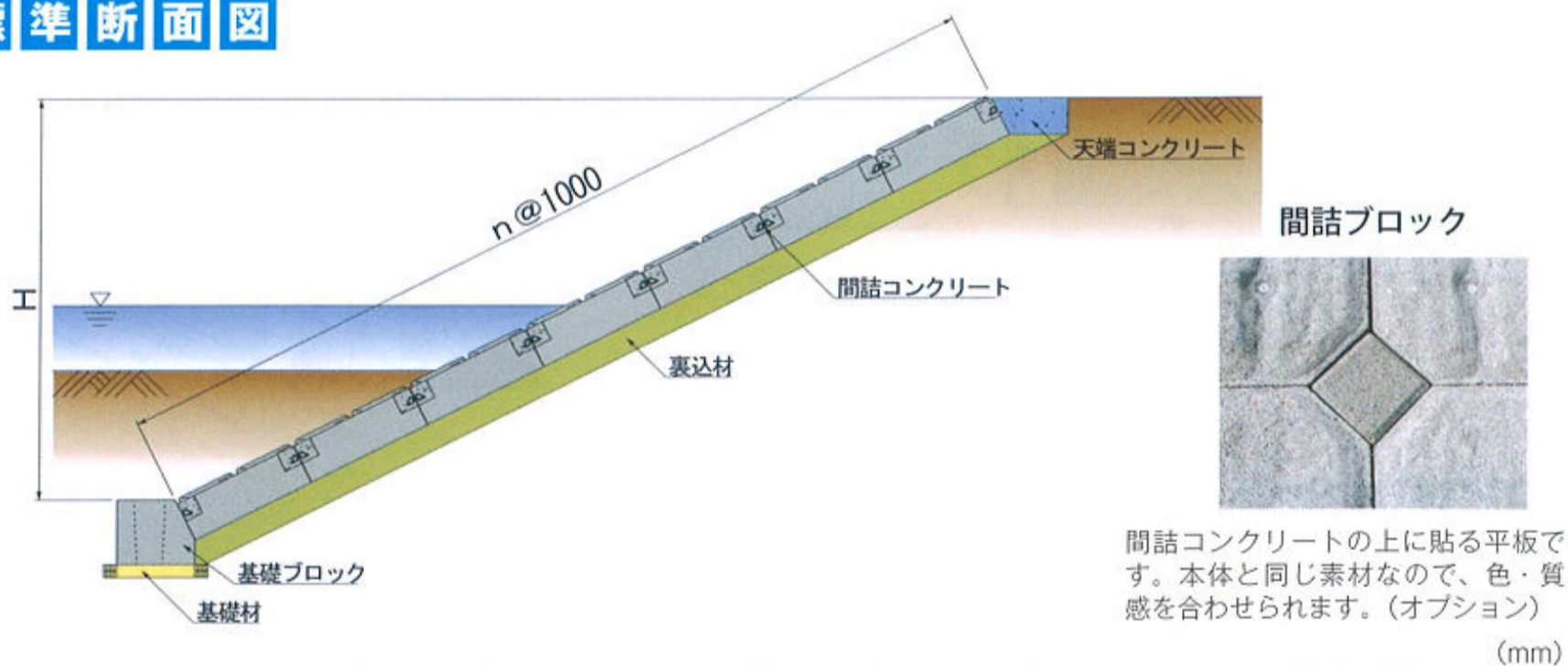
施工例



単体図



標準断面図



呼び名	参考質量 (kg)	価格	寸法	間詰コンクリート量 (m ³ /個)	備考
350型コンクリート	A型	664	998×998×350(315+35)	0.006	粗面コンクリート
	B1・B2型	328	998×496×350(315+35)	0.003	
350型ポーラス	A型	632	998×998×350(315+35)	0.006	7号ポーラス
	B1・B2型	312	998×496×350(315+35)	0.003	
385型コンクリート	A型	732	998×998×385(350+35)	0.006	粗面コンクリート
	B1・B2型	365	998×496×385(350+35)	0.003	
385型ポーラス	A型	696	998×998×385(350+35)	0.006	7号ポーラス
	B1・B2型	347	998×496×385(350+35)	0.003	

参考歩掛表

10m²当り

ロックル (個)	連結金具 (組)	世話役 (人)	ブロック工 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	クレーン25t (日)
10.00	10.00	0.10	0.20	0.10	0.20	0.10